

大聖院：三鬼堂（さんきどう）

弥山の三鬼堂は、弥山の守護神である三つの神「三鬼大権現」を祀っています。三鬼大権現とは神道と仏教の融合（神仏習合）を強く体現した鬼神であり、神道の神に姿を変えて現れた仏を指します。「鬼神」と書きますが幽霊ではなく、崇拝の対象である「神」です。この三つの神は、大日如来（宇宙の最高仏）の化身である追帳鬼神（ついちょうきしん）と、虚空蔵菩薩の化身である時眉鬼神（じびきしん）、五大明王の中心となる不動明王の化身である魔羅鬼神（まらきしん）です。宮島独特の三鬼大権現は、弥山全体を崇拝対象とする山岳信仰、真言密教、神道の神の概念という3つの信仰要素が含まれています。

この信仰の融合は、三鬼堂ではっきりと見ることができます。三鬼堂では、祭壇に置かれた丸い鏡で三鬼大権現が表現されています。鏡は、神社で神との接点としてよく使われる神道のシンボルです。三鬼堂では、それぞれの鏡の後ろに三鬼大権現を表す仏像がありますが、仏像はカーテンの後ろに隠れ、見ることはできません。壁には、大きな天狗の面が2つかけられています。長い鼻を持つ伝説上の生き物の天狗は、三鬼大権現に仕えると考えられ、古くから山岳信仰と関係があります。

三鬼大権現は、9世紀から弥山で信仰対象となってきたと考えられていますが、弥山の現代史

においても重要な役割を果たしてきました。現在の登山道は、三鬼大権現を篤く信仰していた日本の初代総理大臣である伊藤博文（1841～1909）が資金を投じて整備したものです。1991年に再建された現在の三鬼堂には、伊藤博文直筆の扁額（へんがく）が掲げられています。